

異部 峽谷 下廊

1974 昭和49年 10月20~21日 2日共快晴無風 10~16℃ 15名

第1日 20日(日) 信濃大町～黒部ダム～内蔵助谷合～

白竜峡~十字峡~人見平関電合宿所

第2回 21日(月) 人身平～阿曾原～折尾ダム～赤谷～

大譽平字奈月魚津富山驛(一)

「沢で休憩」の声で、内蔵助
谷お合のど真中、塊石の上で休
憩する。おざーがくつけるも、
持参のいっ好品を出して食べる
もの、英國の桃缶を切って準備
するもの、景色を思なからけい。
大変大きな沢で水量もあり、
雪深も若干残っており、水は
凍るほど冷たい。

ダム下から見上げるドーム型アーチダムの高さは186M、長さ1996Mで、巨大なコンクリートの成壁中央部ゲートより水を垂下させて放水している。各は、超男性的な景観で、その恵に預かっていることを思うとき、世人の労苦に感謝したい。

49.10.20 快晴 気温16℃

グム下で「おにぎりを食べ、
甘党はタコ焼きをほあ、
張っている。身仕度を整
えて、いよいよ天下の黒部
4峡谷下ノ廊下を下る。

山奥谷ノ廊下を下る。
小快晴の下を静かに流
れる黒部川に沿つて、一寸
緊張気味な態度で出発

こで「1人で来た」という
相模模原市の水田高之次
も我々ハニテの仲間に入る。

HN

満水時湖面高さ
標高1,448 M
貯水量は2億M³

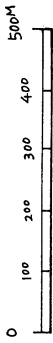
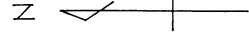
扇沢よりトロリーバスに乗り換え、
アルプスをばち抜いたトンネルを行く。
秘境黒部山奥谷に期待をかけて

大ガレも過ぎ“バシゴ”段へ下つて行く。
「涼しいなあー」空は蒼く、ナトリウム電灯
を照らしたような糸絨の直下も、15分は
3〜5分間隔に一列に並んで“行く様は
整然として、見ても楽しく感じる。
道は一本道、迷う箇所は無いと聞く。
こんな良い条件の日にめぐりあった
なんて全く有難い。

内蔵助谷より五分川へ出る。
さざ波を立てながら美しく流れる。
思部川、対岸の岩の色が鈍く
輝いて印象的だ。切り立つ岩壁
で尾根は見えないうが、上部の黄
土は今が盛りで、見事である。

みみなパフレットを見た。昨午、
行つた人たちが話を聞いて、
各々大きな期待と、少しの不安
を胸に抱きながら、朝陽が
差し込んで明るく開けた周辺
を眺めながら快調に歩いて
行く。いい目で、良かったなあ。

この附近は川中にもなくまだ流れもゆるい。
 迫るよな黒部山ま谷は、内蔵助谷合以降
 次第にその秘境の極美を發揮し、訪れるも
 のを驚嘆させると聞く。特に白竜峽の神秘
 十字峽の豪壯、半月峽とS字峽の曲りわた
 深刻牽流、峻高壯麗な廊下は天下一品。



\$ 1/12500

